

科目名 (英)	導入教育 First Year Experience	年次	1	実務経験	担当	小泉哲郎
		授業形態	講義			
		時間数	30	開講区分	前期	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2	曜日・時間	4月	
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的意識を高め、プロに必要なことが何か意識すること。					
到達目標	同じ目標を持った仲間との相互支援環境を作る					
評価方法	学則に定める評価とする。個人課題評価とグループ課題評価を統合し、評価する。評価記述はS(合格)、U(不合格)とする。導入教育の出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容				
教材	学生便覧・手帳・ポートフォリオ					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介	自己紹介を通して、クラスメートのことを把握する。
2	他己紹介	伝える為の情報収集力、伝える為の伝達力を身につける。
3	学生便覧確認	学園、学校の規則を把握し、今後のスケジュールを理解する。
4	授業、教材説明	授業ルールと教材の意味を理解する。
5	授業の受け方	各科目で必要な事前情報を習得する。
6	キャリアサポートアンケート	自分のキャリアを見つめなおす。
7	進路決定振り返り	入学前の自分を振り返り、今後身につけていきたい事をまとめる。
8	進路決定振り返り	入学前の自分を振り返り、今後身につけていきたい事をまとめる。
9	ITリテラシー	インターネットセキュリティを学ぶ。
10	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
11	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
12	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
13	グループワーク	同じ目的目標をもった仲間とのグループワーク。
14	入学式に向けて	今後の流れを確認し、初回授業を迎える準備をする。
15	まとめ	導入教育で学んだ知識をアウトプットすることが出来る。

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道 I Career Development I	年次	1	実務経験	担当	安中松太郎
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	開講区分	前期	
		単位	2		曜日・時間	1組(金1限) 2組(金2限) 3組(金4限)
講師紹介	社会人経験豊富な職員が、就職活動に向けてコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	業界および職種について理解を深め、自分の目指す将来像を明確にする。プロになるために自己管理が出来るようになる。					
到達目標	プロの職業人になるために必要な業界知識や流れを理解し、ヘアメイクの分野に合わせたビジョンを組み立てることができる 目指すヘアメイク分野の業界を知り、方向性を見出すことができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of LIFE STYLE	事前事後 学習と その内容	●スケジュール確認は毎回実施をします(メモを取る習慣作り) ●体調管理の徹底 →担任授業ではスケジュールの確認だけでなく、就職、学校行事、連絡事項など重要事項をお伝えします。体調管理を徹底して欠席しないように気を付けましょう。			
教材	手帳(スケジュールがわかるもの)・筆記用具・ポートフォリオ					
特記事項	必要事項は必ずメモを取るように意識をする					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1 (4/16)	美容のプロを目指す上で① -振り返りと個人目標設定-	オリエンテーションや導入教育を振り返り、目標を再確認する。 目標に向けてカリキュラムの必要性を明確化し、理解することができる。
2 (4/23)	美容のプロを目指す上で② -クラス目標の設定-	1年後の未来を想像し、クラス全員で共有する目標を設定する ITリテラシー実施
3 (5/14)	職業研究	美容業界の職種(スタイリスト、ヘアメイク、ブライダル)を理解する
4 (5/21)	業界研究①	ヘアメイクになる為の流れを理解し、方法を学ぶ
5 (5/28)	業界研究②	ヘアメイク事務所の調べ方を学び、業界の知識を深めることができる
6 (6/4)	現場実習について	現場実習の流れやルールを理解し、実習に必要な社会的マナー・主体性・コミュニケーション力を身に付けることができる
7 (6/11)	中間試験	入学してからを振り返り、学んだこと・今後身に付けていきたいことをまとめる
8 (6/25)	TOPサロンゼミ	業界のプロから技術やマインドを学び、将来像を明確にする
9 (7/6)	プロの職業人を目指すにあたって①	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する
10 (7/9)	プロの職業人を目指すにあたって②	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する
11 (7/16)	夏休みにあたっての注意事項	長期休暇を過ごすにあたり、今後やるべきことを整理する コンテストについて
12 (8/27)	グループ学習(夏休み課題の振り返り)	グループ学習を通して、発表する力を身に付ける 職業理解を深めるために、体験学習の意図を理解し主体的に授業に参加する
13 (9/3)	TOPサロンゼミ	業界のプロから技術やマインドを学び、将来像を明確にする
14 (9/10)	業界研究③	ヘアメイク業界について、様々な視点から調べ、業界を理解する
15 (9/17)	定期試験	美容業界やプロの職業

科目名 (英)	ビューティ技術論 I Beauty technical I	年次	1	実務経験	担当	小泉哲郎
		授業形態	講義			
		時間数	30	開講区分	前期	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2	曜日・時間	4月～8月	
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術を学ぶ。					
到達目標	最新の美容を知り、業界を流行を知る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容				
教材						
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	アーティストの技術を学ぶ①	プロの技術を身に付ける。 アシスタントとして必要なセルフマネジメントについて知る。
2	アーティストの技術を学ぶ②	プロになる為のフローを知る。 デビューまでのイメージをつけることができる。
3	アーティストの技術を学ぶ③	プロの技術を身に付ける。 アシスタントの立場でのチームマネジメントとは何かを考える。
4	トップサロンゼミ①	最前線で活躍するヘアメイクアーティストからのデモンストレーションと業界講話
5	グループワーク①	現場におけるチームワークをグループで共有する
6	グループワーク②	現場におけるチームワークをグループで共有する
7	プレゼンテーション①	ヘアメイクにおけるチームとは何か発表する
8	コンテスト対策①	デザインを想像する
9	コンテスト対策②	デザインを創造する
10	コンテスト対策③	デザインを平面に起こす
11	コンテスト対策④	デザインを立体にする
12	コンテスト対策⑤	デザインをヘアメイクにおこす。
13	コンテスト対策⑥	制作する
14	コンテスト対策⑦	制作する
15	コンテストフィードバック	コンテストでのデザインを発表、共有する。

科目名 (英)	アシスタントプログラム I Assistant Program I	年次	1	実務経験	担当	佐藤直雅
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2		曜日・時間	4月～8月
講師紹介	自身もヘアメイクアーティストとして活躍しながら、ヘアメイク事務所やサロンも運営する講師から業界最先端の知識を伝える。					
目的 科目概要	業界即戦力の知識、技術、マインドを伝える。					
到達目標	現場即戦力となりうる技術、知識、マインドを習得し、現場で活躍できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	筆記用具					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	アシスタントプログラムとは①	自己紹介を通して、将来を想像する。
2	アシスタントプログラムとは②	今後の流れと現場でデビューについて学ぶ。
3	業界について①	テレビやCM等の現場ジャンルと専門用語等を学ぶ。
4	業界について②	テレビやCM等の現場ジャンルと専門用語等を学ぶ。
5	アシスタントの動きについて①	アシスタントとして持ち物と動きを学ぶ。
6	アシスタントの動きについて②	アシスタントとして持ち物と動きを学ぶ。
7	中間試験	アシスタントの動き等をまとめ、発表する。
8	アシスタントの動きについて③	一歩先を行くヘルプを学ぶ。
9	アシスタントの動きについて④	一歩先を行くヘルプを学ぶ。
10	現場別のアシスタント対策①	現場ごとに注意する点を理解し、どんな現場でもスムーズに動けるようになる。
11	現場別のアシスタント対策②	現場ごとに注意する点を理解し、どんな現場でもスムーズに動けるようになる。
12	現場別のアシスタント対策③	現場ごとに注意する点を理解し、どんな現場でもスムーズに動けるようになる。
13	アーティスト講話①	アーティストの生い立ちからデビュー、その後のワークを学び、将来のイメージと合わせる。
14	アーティスト講話②	アーティストの生い立ちからデビュー、その後のワークを学び、将来のイメージと合わせる。
15	定期試験	アシスタントの意味をまとめ、発表する。

科目名 (英)	メイクアップ総論 I General Make up I	年次	1	実務経験	担当	福島裕司／大和田一樹
		授業形態	演習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4		曜日・時間	1組(火1・2限)2組(月1・2限)3組(木1・2限)
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任してきました。ここではメイクアップに必要な専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:メイクアップに関するマナー、専門知識、ナチュラルメイクの基礎的な技術を学ぶ。 科目概要:メイク基礎を学びJESCメイクアップアーティスト検定に合格できるようになる。					
到達目標	正しいメイクアップのマナーとセッティングの仕方を習得する 正しい化粧品の使用方法を理解し、限られた時間内でナチュラルメイクを仕上げることができる。 パーツごとにナチュラルメイクの正しい技術を習得することができる。 バランスの良いナチュラルメイクを仕上げることができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	Make up foundation 1	事前事後 学習と その内容	メイクアップは細かいプロセスが多いので、毎回必ずノートを取って欲しいです。			
教材	学校指定のメイクアップ教材					
特記事項	7回目と14回目の授業時に課題を提出をしていただきます。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	マナー・セッティング・スキンケア	正しいセッティングの仕方を習得する メイクアップの様々なマナーを理解する スキンケアの手順を理解する
2	前回の復習/ベースメイク	セッティング～マナーの確認、スキンケア復習。正しいセッティングの仕方を習得する スキンケアの手順を習得する。 ベースメイクの種類と特長、作り方を理解する。
3	前回の復習/アイブロウ	スキンケア～ベースメイク復習。スキンケアの手順を熟練する。 ベースメイクの作り方を習得する。 アイブロウアイテムの種類と特長、描き方を理解する。
4	前回の復習/アイメイク	事前にベースメイクを作っておく。アイブロウ復習。ブラシを使ったアイシャドウの付け方、グラデーションの出し方、アイラインの引き方、ビューラーの使い方、マスカラの付け方を学ぶ。
5	前回の復習/リップ・チーク	事前にベースメイクを作っておく。アイブロウおよびアイメイク復習。アイメイクの仕方を習得する。 リップラインの描き方を理解する。 チークの付け方を学ぶ。
6	1～5回まで授業の振り返りと中間試験トレーニング	1～5回目までの総復習。時間に入ることと完成度のバランスを上げることを目指す。
7	中間試験	フルメイク(35分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(35分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。
8	フルメイク	フルメイク(35分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(35分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。
9	ゴールデンプロポーションとシェーディング	フェイスプロポーションを計測し顔のパーツの配置の違いを理解する。顔の黄金比を知り、美しいパーツ配置のバランスを理解する。ハイライトとシャドウによるベースメイクの立体感の付け方を学ぶ。
10	前回の復習/アイブロウの形を変えて描く	シェーディングを含めたベースメイク。過不足無い自然な立体感のあるシェーディングを習得する。自然に長く・短く、太く・細くするアイブロウの描き方を理解する。
11	前回の復習/アイシャドウの横グラデーション	自然に長く・短く、太く・細くするアイブロウの描き方を習得する。 縦グラデーションと横グラデーションの違いと特徴を理解する。
12	前回の復習/立体的リップとグラデーションリップ	横グラデーションのアイメイクを習得する 立体的なリップラインの描き方を理解する グラデーションを活かしたリップラインの描き方を理解する
13	前回の復習/立体的なチーク	立体的なリップラインの描き方を習得する グラデーションを活かしたリップラインの描き方を習得する 立体的なチークの入れ方を理解する
14	定期試験の練習 フルメイク	9～13周までポイント含むフルメイクを習得する 時間内(30分)でフルメイクができるスピーディに仕上げる技術を習得する 定期試験の注意事項を確認する
15	定期試験	フルメイク(30分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(30分)に仕上げることができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。

科目名 (英)	おもてなし Omotenashi	年次	1	実務経験	担当	石田智子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2		曜日・時間	1組(金2限)2組(金1限)3組(金3限)
講師紹介	百貨店などさまざまな接客サービスの現場経験から得た豊富な実体験を交え講義を行う。個人技に近い「おもてなし」を自分自身で学び取るために、講義及びグループワークを取り入れた体験参加型の授業を行うので、積極的に毎授業参加すること。					
目的 科目概要	接客業に必要な「おもてなし」の心を育む。お客さまの快適と安心を心がけ、要求をかなえるだけでなく、常に満足を超えた感動を生みだせるおもてなしマスターとなるために、おもてなしの心・型・スキルを検定教本を通して体系的に学ぶ。					
到達目標	「おもてなしマスター」資格を取得する。おもてなしのプロとして顧客の声を聴き、観察し「相手が何を望むか」をさまざまな角度から自ら考え行動できる態度を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	おもてなしマスター資格検定教本		事前事後 学習と その内容	おもてなしのプロとしてふさわしい、笑顔、挨拶、姿勢、身だしなみ、言葉づかいを常に意識すること。		
教材						
特記事項	毎授業教本及び筆記用具一式を必ず持参すること。決められた座席に着席すること、またワークの際は速やかに随時席移動すること。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	科目オリエンテーション	講師自己紹介・科目オリエンテーション(授業ルール・評価について・資格検定についてなど)
2	おもてなしとは何か	日本におけるおもてなし実例紹介・グループワーク「おもてなしとは」
3	おもてなしの心3つと基本となる型	教本におけるおもてなしの心3つの解説・基本となる5つの型
4	型1 事前調査	事前調査の必要性・傾聴スキルについての解説とグループワーク
5	型2 時間管理	時間管理とタイムルール・グループワークでお客さまに「待たされた感」を感じさせない工夫を見出す
6	型3 環境設定	五感と季節を意識したお客さまにとっての空間準備について考える
7	中間試験	中間試験実施と終了後の解答解説から自身の課題を抽出する
8	型4 場面演出	場面演出の目的とイベント演出の解説・グループ内でプレゼンテーションスキルを実践する
9	型5 変化対応①	アサーションの4つのタイプの解説・自身のアサーションタイプをチェックリストで確認する
10	型5 変化対応②	ポジティブシンキング・ストレスマネジメントについての解説・グループワークで実践する
11	5つのどの型にも有効な共通スキル①	エゴグラム・コーチングについての解説・グループワークで実践する
12	5つのどの型にも有効な共通スキル①	なぜなぜシンキング・KJ法についての解説・検定試験に向けての準備説明
13	振り返りとまとめ	おもてなしマスター検定に向けて最終的な準備を整える
14	過去問題及び記述問題対策	過去問題に取り組み自己採点・記述問題対策の最終確認
15	定期試験(おもてなしマスター検定試験)	おもてなしマスター検定に合格する

科目名 (英)	ヘアスタイリング I Hair Styling 1	年次	1	実務経験	担当	小野寺舞
		授業形態	演習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4		曜日・時間	1組(木1・2限)2組(月1・2限)3組(水1・2限)
講師紹介	ヘアメイクアーティストとして様々な現場を経験し、現在は事務所の代表を務めながら現役としても自身の技術を雑誌で紹介する等、活動しております。スタイルを作る方法は様々なので、皆さんそれぞれに合った学び方で技術を習得出来るようお伝えします。					
目的 科目概要	目的:ヘアアレンジ、ブローを行う為に必要な基礎技術、道具の使い方を学ぶ。概要:この科ではウィッグを使い実際に自身の仕上がりを確認することにより、回数を重ね基礎技術を身に付ける。全てのアレンジを行う上で欠かせない共通する技術である。					
到達目標	ヘアアレンジ、ブローの基礎テクニックを習得し、さまざまなアレンジに応用することが出来る。技術者としてのマナー、心構えを習得する。専門的な知識を学び、指定された技術をスムーズに作る事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	プリント	事前事後 学習と その内容	実習後、次の授業までに復習し、より確実に身に付ける事が望ましい。			
教材	ヘア道具一式					
特記事項	実技がメインとなる授業の為、遅刻欠席は出来るだけせず、毎授業において手順等の内容は必ずメモを取り復習すること。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	道具の使い方・ブロー①・スライス・ゴムの結び方	この授業での今後の流れを把握し、目標を立てる。道具の使い方や名称を覚え、扱いに慣れる
2	復習・ピン打ち・ブロッキング	前回は行った技術を復習(ブロー・スライス・ゴム)し習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え習得に繋げる。
3	復習・コテ巻き	前回は行った技術を復習(ブロー・ピン打ち・ゴム)し習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え習得に繋げる。
4	復習・編み込み①・ツイスト	前回は行った技術を復習(ブロー・ピン打ち・ゴム・コテ巻き)し習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え習得に繋げる。
5	復習・編み込み②	前回は行った技術を復習(ブロー・ピン打ち・ゴム・編み込み)し習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え習得に繋げる。
6	1～5回までの復習・試験対策	前回までの技術を復習し、苦手な箇所を確認する。中間試験に向けて技術向上につなげる
7	中間試験	7回目までの技術習得度を確認する。フィードバックから今後の目標を立てる
8	ホットカーラー・抱き合わせ・ブロー②	夜会巻きを作るベース作りを学ぶ。新たにロールブラシでのブローを習得する
9	復習・夜会巻き①	前回は行った技術を復習(ブロー、ホットカーラー)し習得する。新たに学んだ夜会巻きの基礎技術を覚え習得に繋げる
10	復習・夜会巻き②	前回は行った技術を復習(ブロー、ホットカーラー、夜会巻き土台作り)し習得する。新たに学んだ夜会巻きの基礎技術を覚え習得に繋げる
11	復習・夜会巻き③	前回は行った技術を復習(ブロー、ホットカーラー、夜会巻きベース作り)し習得する。新たに学んだ夜会巻きの基礎技術を覚え習得に繋げる。
12	ハーフアップスタイル・ダウンスタイル	前回までの技術を生かし、ハーフアップスタイルを仕上げる
13	アップスタイル	前回までの技術を生かし、アップスタイルの作成
14	復習・夜会巻き④・試験対策	前回までの技術を復習し、苦手な箇所を確認する。定期試験に向け技術向上、スピードアップに繋げる
15	定期試験	14回目までの技術習得度を確認する。フィードバックから後期の目標を立てる

科目名 (英)	ネイルケア & アート Nail Care & Art	年次	1	実務経験	担当	石澤美沙
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2		曜日・時間	1組(木3・4限)2組(木1・2限)3組(水1・2限)
講師紹介	トータルビューティーサロンにて、メイクアップ、ネイル、エステティック、アイラッシュを担当。技術、販売など接客に加えてスタッフの育成に貢献してきたのち、フリーランスのビューティシャンとして顧客へのサービスを提供する傍ら、専門学校において10年間の講師経験をもつ教員が、ヘアメイクを目指すために必要な基礎的専門知識、技術を習得するための授業を行う					
目的 科目概要	目的:7/18(日)のJNECネイリスト技能検定試験3級に合格する 目概要:衛生的かつ効率的に施術をするためのテーブルセッティング、各種道具の扱い方を覚えたのち、二人一組での相モデルの体制で施術者、モデルの観点からネイルケア、ポリッシュカラーリング、フラットアートを学ぶ。					
到達目標	ヘアメイクに必要なネイルの基礎を身につける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	JNAテクニカルシステムベーシック		事前事後 学習と その内容	技術においては知人・家族などへモデル協力を依頼し、可能な限り反復練習をすることが望ましい。また、デモンストレーションの際にはテキストにはない要点の説明や注意事項を交えて行うため、メモを取り、事後学習に役立てて欲しい。		
教材	ネイル教材一式					
特記事項	欠席、遅刻がないよう自己管理を徹底するとともに、学生同士の道具の貸し借りは一切行わず、忘れ物は減点対象とする					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	教材確認と下処理/テーブルセッティング/ファイリング	・配布された道具の名称と用途を確認し、すぐに使用できる状態への下処理をする ・衛生的・効率的に作業するためのテーブルセッティングを覚える ・ファイリング～色々なカットスタイルを覚える
2	ネイル概論/ファイリング	・ネイルの歴史/技術体系/爪の構造と働き ・道具の正しい持ち方、動かし方を習得し、10本揃ったファイリングが出来るようになる
3	ネイル概論/キューティクルクリーン	・ネイルの皮膚科学/ネイルケアの手順について学ぶ ・プッシュアップ、バックとキューティクルニッパーの扱いが出来るようになる
4	キューティクルクリーン復習	・キューティクルクリーンの苦手を克服する ・ネイルケアの流れを把握する
5	ネイルケア	・ファイリング～ニッパーまで、ケアを通して出来るようになる
6	ネイル概論/カラーリングとポリッシュオフ	・爪や皮膚の病気とトラブル/消毒法 ・カラーリング及びポリッシュオフの手順とポイントを覚える
7	中間試験(実技)/検定概要説明	・ネイルケア(相モデル) ・定について
8	カラーリング/トールペイント ※課題提出	・美しいカラーリングが出来るようになる ・カラーリング & オフの復習 ・ラシワーク及びアクリル絵の具を使ったフラットアートの基本形を習得する
9	ケアカラー/検定対策アート	・ケアカラー(相モデル) ・ラワーアートが出来るようになる
10	ケアカラータイムトライアルⅠ/筆記対策	・アートを含めたカラーリングをタイムを意識して仕上げられるようになる ・筆記模擬試験
11	ケアカラータイムトライアルⅡ/筆記対策	・アートを含めたカラーリングをタイムを意識して仕上げられるようになる ・筆記模擬試験
12	デザインカラー(チップ)	・基本のデザインカラーリングを習得する(グラデーション/フレンチ/マーブル)
13	ケアカラー	・期末試験に向けたケアカラーのトレーニング(タイムトライアル)
14	期末試験Ⅰ(実技)	・ケアカラー(ポリッシュオフ込み)
15	期末試験Ⅱ(実技)	・ケアカラー(ポリッシュオフ込み)

科目名 (英)	着付<初伝><中伝> kitsuke	年次	1	実務経験	担当	岡野暢子・大原洋子
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4	開講区分	前期	
講師紹介	長年和装の着付技術の指導にあたり、自らも和装ブライダル等の現場を経験してきた教員が、日本の誇れる文化である着物の冠婚葬祭での基礎知識をわかりやすく解説し、伝統を継承しながらも現代のニーズに応えられる上質の和装着付の技術をお伝えします。					
目的 科目概要	目的:器具等を使用しないどのような現場でも通用する着付技術を学ぶ。山野流着装<初伝><中伝>資格取得を目標とする。 概要:前半では着物に親しみ浴衣から小紋までを一人で着る着付の基礎を学び、後半ではミスの第一礼装の振袖、ミセスの第一礼装の留袖の知識と格式にあった着付技術を学ぶ。					
到達目標	<初伝> ・1人で着る着付:小紋の着付と名古屋帯のお太鼓結び ・着物の本だたみと長じゅばんののたたみ方		<中伝> ・お客様の着付:ミセスの第一礼装 ・黒留袖の着付と袋帯で結ぶ二重太鼓の帯結び ・着物の本だたみ			
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	一般財団法人国際美容協会発行 きもの着つけ教本		事前事後 学習と その内容	着物に関してはほとんどの方が初めて見聞きするものが多いはず です。 事前に教科書・インターネット等で夏の浴衣やこれから迎える成人式 の振袖を調べてイメージしてみましょう。 事後は教科書を復習し着物の名称を正しく覚えましょう。		
教材	学校貸出:浴衣・小紋・細帯・名古屋帯・長襦袢・帯揚げ・帯締め					
特記事項	資格取得を目標とする科目により全日出席してください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	浴衣の歴史・知識の説明	着物の名称を覚える 下着・紐・小物の用い方を覚える 着付前の準備の仕方 浴衣の着付の展示説明
2	浴衣の着付と帯結び	着付前の準備の仕方 復習 浴衣の着付と帯結び P17～P29 浴衣の本だたみ
3	小紋と名古屋帯の知識	着付前の準備 足袋・下着・タオル・肌着の着付 長襦袢の着付(伊達締めまで) 長襦袢のしまう時のたたみ方説明→実技
4	名古屋帯・小紋の準備の仕方・小紋の着付	準備の仕方 小紋の着付(伊達締めまで) 実習 長襦袢と小紋のしまう時のたたみ方
5	小紋の着付と帯結び	準備の仕方から小紋の着付(伊達締めまで) 実習 名古屋帯の一重太鼓の帯結び-展示同時実習
6	小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結び	準備の仕方から小紋の着付(伊達締めまで) 実習 名古屋帯の一重太鼓の帯結び帯締め・帯揚げの整え方 展示同時実習
7	着付総仕上げ 小紋の着付と名古屋帯の一重太鼓の帯結び	小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結びを仕上げる 長襦袢と着物の本だたみ
8	初伝資格試験 準備の仕方から一人で着る着付 衣装のしまい方まで	小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結びを帯締め・帯揚げまで仕上げる 着物の本だたみと長襦袢のたたみ方まで
9	ミスの第一礼装・振袖について	ミスの第一礼装・振袖についての知識を覚える 体型補正～長襦袢の着付～振袖の 着付まで P84 展示同時実習 2人1組相モデル 振袖のしまう時のたたみ方
10	ミスの第一礼装・振袖について	振袖の着付と帯結び・二枚扇の結び方を覚える 展示同時実習 2人1組相モデル
11	ミスの第一礼装・振袖について	振袖の着付と袋帯使用の二枚扇の帯結び 2人1組→交代して仕上げる
12	ミセスの第一礼装・留袖について	ミセスの第一礼装・留袖についての知識を覚える 黒留袖の着付(伊達締めまで)展示の実習 2人1組相モデル
13	ミセスの第一礼装・留袖について	黒留袖の着付と帯結び・袋帯使用の二重太鼓 2人1組相モデル
14	着付総仕上げ:お客様の着付	ミセスの第一礼装・黒留袖の着付と二重太鼓 礼装用の帯あげと帯じめの整え方 2人1組交代で実習 仕上げる
15	定期試験 中伝資格試験	実技試験:お客様の着付け(第一礼装) 黒留袖の着付と袋帯使用の二重太鼓を仕上げる 2人1組相モデル

科目名 (英)	メイクアップ I Make up I	年次	1	実務経験	担当	台英行/渡邊路衣
		授業形態	演習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4		曜日・時間	1組(月1・2限)2組(火1・2限)3組(月3・4限)
講師紹介	ヘアメイク事務所に所属し美容師、メイクスクール講師を務めたのち、撮影現場や大手手化粧品ブランドのヘアメイクアーティストとして活躍中の講師。					
目的 科目概要	目的:メイクアップに関するマナー、専門知識、ナチュラルメイク、バリエーションメイクの基礎的な技術を学ぶ。科目概要:メイク基礎を学びJESCメイクアップアーティスト検定に合格できるようにする。					
到達目標	1. 正しいメイクアップのマナーとセッティングの仕方を習得する。2. 正しい化粧品の使用方法を理解し、限られた時間内でナチュラルメイクを仕上げることができる。3. パーツごとにナチュラルメイクの正しい技術を習得する。4. バランスの良いナチュラルメイクを仕上げることができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	Make up foundation 1 /JESCメイクアップ基礎		事前事後 学習と その内容	メイクの工程やプロセスを次回授業でも復習できるように毎回ノートをとること。		
教材	学校指定のメイクアップ教材					
特記事項	メイク前にメイク道具をセッティングしておく。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	マナー・セッティング・スキンケア	正しいセッティングの仕方を学ぶ/メイクアップの様々なマナーを理解する/ケアの手順を理解する
2	ベースメイク	セッティング～マナーの確認/スキンケアの手順の習得/ベースメイクの種類と特徴、メイク方法を理解する。
3	アイブロウ	スキンケア～ベースメイクの復習/ベースメイクを綺麗に仕上げられるようにする/アイブロウアイテムの種類と特徴、メイク方法を理解する。
4	アイメイク	事前にベースメイクを作っておく/アイブロウ復習/ブラシを使ったアイシャドウのグラデーションの出し方、アイラインの引き方、ビューラーの使い方、マスカラのつけ方を学ぶ。
5	チーク・リップ	事前にベースメイクを作っておく/アイブロウ、アイメイク復習/チークの基本的な位置、メイク方法を学ぶ/ブラシでのリップのつけ方を学ぶ。
6	フルメイク、模擬中間試験	1～5回目の授業で学んだフルメイクをタイムを計って練習。
7	中間試験	フルメイク(35分)に仕上げることができる/メイクアップの正しいマナー、セッティングを習得する/各パーツをバランスよく綺麗に仕上げることができる
8	フルメイク/ハイライト&シェーディング	フルメイクをバランス良く仕上げる/ハイライトとシェーディングによるベースメイクの立体感を理解し、取得する。
9	アイブロウバリエーション	アイブロウの形での印象の違いを理解して、使い分けができるようにメイクを習得する
10	アイシャドウ&ラインバリエーション	アイメイクの形での印象の違いを理解して、使い分けができるようにメイクを習得する
11	キュートメイク	キュートメイクのイメージに合わせてアイブロウ、アイメイク、チーク、リップの形を使い分け、色味や質感を理解する
12	クールメイク	クールメイクのイメージに合わせてアイブロウ、アイメイク、チーク、リップの形を使い分け、色味や質感を理解する
13	エレガントメイク	エレガントメイクのイメージに合わせてアイブロウ、アイメイク、チーク、リップの形を使い分け、色味や質感を理解する
14	定期試験 課題練習	定期試験の模擬試験/フルメイクをタイムを計って練習。
15	定期試験	課題フルメイク(30分)で仕上げることができる/課題にあったメイク内容を理解し、バランスよく仕上げる

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道Ⅱ Career Development Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	安中松太郎
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	開講区分	後期	
		単位	2			
講師紹介	社会人経験豊富な職員が、就職活動に向けてコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	業界および職種について理解を深め、自分の目指す将来像を明確にする。プロになるために自己管理が出来るようになる。					
到達目標	プロの職業人になるために必要な業界知識や流れを理解し、ヘアメイクの分野に合わせたビジョンを組み立てることができる 目指すヘアメイク分野の業界を知り、方向性を見出すことができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of LIFE STYLE	事前事後 学習と その内容	●スケジュール確認は毎回実施をします(メモを取る習慣作り) ●体調管理の徹底 →担任授業ではスケジュールの確認だけでなく、就職、学校行事、連絡事項など重要事項をお伝えします。体調管理を徹底して欠席しないように気を付けましょう。			
教材	手帳(スケジュールがわかるもの)・筆記用具・ポートフォリオ					
特記事項	必要事項は必ずメモを取るように意識をする					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1 (4/16)	ワクワクホーム	情報がたくさんある時代に必要な情報だけをを集められるようになる。
2 (4/23)	就職スケジュール・履歴書・面接対策	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
3 (5/14)	自己紹介の練習	自己紹介の練習を行い、他人から見た自分の姿を把握する。
4 (5/21)	履歴書の免許・資格の書き方	履歴書の免許・資格の書き方を理解し、求人票の見方を学ぶ。
5 (5/28)	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
6 (6/4)	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
7 (6/11)	中間試験	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
8 (6/25)	面接対策	面接対策で今後自分に何が必要かを理解する。
9 (7/6)	業界研究	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
10 (7/9)	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
11 (7/16)	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
12 (8/27)	電話のかけ方	電話のかけ方を学び、印象の良い電話対応が出来るようになる。
13 (9/3)	面接先や説明会会場での所作	面接先や説明会会場での所作を学び、印象の良い対応が出来るようになる。
14 (9/10)	就職対策	春休みの就職活動について理解し、主体的に活動するための手段を理解知る。
15 (9/17)	定期試験	履歴書の完成を通して、就職活動の準備を整える。

科目名 (英)	ビューティ技術論Ⅱ Beauty technical Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	小泉哲郎
		授業形態	講義			
		時間数	30	開講区分	後期	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2	曜日・時間	9月～3月	
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術を学ぶ。					
到達目標	自分の想いをデザインを通じて他者へ伝えることができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容				
教材						
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	アーティストの技術を学ぶ④	プロの技術を身に付ける。 活躍するプロの講話から自分のキャリアプランを考え立てることができる。
2	アーティストの技術を学ぶ⑤	プロの技術を身に付ける。 アシスタントが求められるマネジメント能力とは何かを考えることができる。
3	アーティストの技術を学ぶ⑥	プロの技術を身に付ける。 失敗した時に必要なセルフマネジメント能力とは何かを考え、行動に変えることができる。
4	アーティストの技術を学ぶ⑦	現場から求められるヘアメイク像、自分の理想とするヘアメイク像を明確にすることができる。
5	アーティストの技術を学ぶ⑧	プロの技術を身に付ける。 プロになる為のフローを知る。
6	トップサロンゼミ②	最前線で活躍するヘアメイクアーティストからのデモンストレーションと業界講話
7	プレゼンテーション①	アーティストの技術、知識、空間づくりを学び、グループでプレゼンテーションをする。
8	撮影対策①	デザインを想像する
9	撮影対策②	デザインを創造する
10	撮影対策③	デザインを平面に起こす
11	撮影対策④	デザインを立体にする
12	撮影対策⑤	デザインをヘアメイクにおこす。
13	撮影対策⑥	空間を演出する。
14	撮影対策⑦	制作する
15	撮影フィードバック	コンテストでのデザインを発表、共有する。

科目名 (英)	アシスタントプログラムⅡ Assistant Program Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	佐藤直雅
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2		曜日・時間	9月～2月
講師紹介	自身もヘアメイクアーティストとして活躍しながら、ヘアメイク事務所やサロンも運営する講師から業界最先端の知識を伝える。					
目的 科目概要	業界即戦力の知識、技術、マインドを伝える。					
到達目標	現場即戦力となりうる技術、知識、マインドを習得し、現場で活躍できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	筆記用具					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	実践ワーク①	現場ロールプレイを行うことで、現場での動きの確認を行いながら、次の行動を予想できるようになる。
2	実践ワーク②	現場ロールプレイを行うことで、現場での動きの確認を行いながら、次の行動を予想できるようになる。
3	実践ワーク③	現場ロールプレイを行うことで、現場での動きの確認を行いながら、次の行動を予想できるようになる。
4	実践ワーク④	現場ロールプレイを行うことで、現場での動きの確認を行いながら、次の行動を予想できるようになる。
5	業界講話①	ファッション業界(ランウェイ)について学ぶ
6	業界講話②	ファッション業界(ランウェイ)について学ぶ
7	中間試験	アシスタントの動き等をまとめ、発表する。
8	業界講話③	映画、ドラマについて学ぶ。
9	業界講話④	映画、ドラマについて学ぶ。
10	業界講話⑤	専属について学ぶ。
11	業界講話⑥	専属について学ぶ。
12	大学とのコラボ企画①	デザインを共有し、よりクオリティを高める。
13	大学とのコラボ企画②	トータルデザインを想像し、ヘアメイクへ落とし込む。
14	大学とのコラボ企画③	時間内にもモデルを仕上げる速度と完成度を高める。
15	定期試験	大学とのコラボ企画フィードバック

科目名 (英)	メイクアップ総論 II General Make Up II	年次	1	実務経験	担当	高岸裕一
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	4		曜日・時間	1組(月1・2限)2組(木3・4限)3組(木1・2限)
講師紹介	CAA化粧品販売員検定協会、ヘアメイク事務所の代表を務め、コレクションやメイクショー など大手ブランドにて数多くの現場経験をしている講師。					
目的 科目概要	メイクアップアーティスト・ビューティアドバイザーとして必要な技術力・知識力・販売力を身につける。CAA全国化粧品販売員検定協会ブロンズ資格を取得する。					
到達目標	CAA全国化粧品販売員検定協会のブロンズ資格を取得する。4シーズンのメイクアップの特徴を理解し習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	CAA全国化粧品販売員検定協会公式テキスト	事前事後 学習と その内容	実技授業の場合、授業前にメイクセッティングをして下さい。授業後は全員で消毒と清掃を行います。ブラシ・パフは毎回洗浄して下さい。			
教材	メイク道具一式					
特記事項	課題にてテーマ別のメイクアップ画像提出					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介・化粧品業界の動向とブランド分析	自己紹介・化粧品業界の動向を理解しブランド分析する。デザインシート書き方
2	化粧品学(基礎)1スキンケアアイテム	基礎化粧品の分類と特徴を理解し習得する。実技:ハイブランドブランドメイク(セルフ)
3	化粧品学(基礎)2メイクアップアイテム	仕上げ用化粧品の分類と特徴を理解し習得する。実技:ポイントメイク タッチアップ①
4	接客販売1&タッチアップ	化粧品販売員の役割・心構え・ホスピタリー・身だしなみ・パーソナルスペースなどを理解し習得する。実技:ポイントメイク タッチアップ②
5	接客販売2&タッチアップ	お客様の分類・集客・売上・販売行動・アプローチ・クロージングなどを理解し習得する。実技:ポイントメイク タッチアップ③
6	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験対策	ブロンズ模擬テスト 実技:タッチアップ 色相グラデーション
7	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験
8	4シーズンカラー スプリング	①色彩学 4シーズンカラー スプリングの特徴を理解しメイクで習得する。
9	4シーズンカラー サマー	②色彩学 4シーズンカラー サマーの特徴を理解しメイクで習得する。
10	4シーズンカラー オータム	③色彩学 4シーズンカラー オータムの特徴を理解しメイクで習得する。
11	4シーズンカラー ウィンター	④色彩学 4シーズンカラー ウィンターの特徴を理解しメイクで習得する。
12	ヒューマンカラーチェック	色相:ベースカラー・明度:ライト・ディープ・彩度:ビビット・ソフト を理解し診断する。
13	パーソナルカラーチェック	カウンセリングでベストカラーを導き出し、パーソナルカラーでフルメイクをする。
14	期末試験対策:4シーズンカラー	実技試験:パーソナルカラーで40分フルメイクの理解と対策
15	期末試験:4シーズンカラー	実技試験:パーソナルカラーで40分フルメイク

科目名 (英)	トメイクアップⅡ Make Up Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	高岸祐一
		授業形態	演習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4		曜日・時間	1組(火1・2限)2組(月3・4限)3組(火3・4限)
講師紹介	CAA化粧品販売員検定協会、ヘアメイク事務所の代表を務め、コレクションやメイクショー など大手ブランドにて数多くの現場経験をしている講師。					
目的 科目概要	目的:メイクアップデザインに関する専門的な理論と技術を学び、メイクアップイメージを作り上げる。科目概要:形・色彩・質感が持つイメージを学び、それを組み合わせることでメイクアップイメージを表現できることを理解する。					
到達目標	CAA全国化粧品販売員検定協会のブロンズ資格を取得する。4シーズンのメイクアップの特徴を理解し習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	JESCメイクアップ基礎	事前事後 学習と その内容	授業前にメイクセッティングをして下さい。授業後は全員で消毒と清掃を行います。ブラシ・パフは毎回洗浄して下さい。			
教材	メイク道具一式					
特記事項	課題にてテーマ別のメイクアップ画像提出					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	質感① ツヤ肌	質感①:ツヤ肌の道具・仕上がりを理解しメイクを習得する。
2	質感② マット肌	質感②:マット肌の道具・仕上がりを理解しメイクを習得する。
3	質感③ パール・ラメ・グリッター・グロッキー	質感③パール・ラメ・グリッター・グロッキーの道具・仕上がりを理解しメイクを習得する。
4	形①直線	形①:直線的なメイクアップのデザインを理解しメイクを習得する。
5	形②曲線	形②:曲線的なメイクアップのデザインを理解しメイクを習得する。
6	中間試験対策 フルメイク(ツヤ肌・直線)	中間試験対策:ツヤ肌・直線的なメイクアップデザインを習得する。
7	中間試験 フルメイク(ツヤ肌・直線)	中間試験:ツヤ肌・直線的なメイクアップデザイン
8	Yベース・Bベース	イエローベース・ブルーベースを理解しメイクを習得する。
9	上昇・下降	上昇メイクと下降メイクの特徴とデザインを理解しメイクを習得する。
10	トーン:ライト・ディープ	ライトトーン・ディープトーンの特徴を理解しメイクを習得する。
11	イメージメイク①キュート	質感・形・トーンでキュートメイクを習得する。
12	イメージメイク②クール	質感・形・トーンでクールメイクを習得する。
13	イメージメイク③エレガント	質感・形・トーンでエレガントメイクを習得する。
14	期末試験対策:イメージメイク	実技試験:イメージメイクで40分フルメイクの対策
15	期末試験:イメージメイク	実技試験:イメージメイクで40分フルメイク

科目名 (英)	デザイントレーニング Design training	年次	1	実務経験	担当	山内ひとみ/堀江知代
		授業形態	講義			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4		曜日・時間	1組(水1・2限)2組(月1・2限)3組(金3・4限)
講師紹介	<p>日本画を学びながらデッサンの講師として美容系の学生さんに携わり美容を目指す人の個性の中に美意識を感じてきました。その意識を具現化出来るように取り組みます</p> <p>美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。</p>					
目的 科目概要	<p>スタイル画を自ら描けるようにデザインの基本を学びます</p> <p>自分の頭の中でイメージしたものをどのようにヘアメイクとして落とし込んでいくのか作品をつくる上で考える力、バランス力を培う</p>					
到達目標	<p>自らのイメージしたデザインをスタイル画にする</p> <p>与えられたテーマに沿って自分のオリジナリティを加えた作品作りができるようになる</p>					
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input checked="" type="checkbox"/> 作品</p>					
教科書						
教材	クロッキー帳・鉛筆・メイクパレット・鏡・はさみ ヘアメイク道具デザインを書く道具	事前事後 学習と その内容	moodlの資料を授業前に確認して授業のイメージをしてください			
特記事項	初回授業までに鉛筆を削ってください ハサミ・ラメ・パーツ・リボン・カラー・ライン・テープ・つけまつげ糊					

授 業 計 画						
回数	授業テーマ	授業内容				
1	線 面 立体	線の練習・線の強弱・感情をヘアスタイルに表現 円・楕円の描き方と左右対称の美を知る りんごのデザインから立体とグラデーションを学ぶ				
2	顔のパーツとバランス	顔のパーツ眉 目 鼻 口の立体と作りを知り描く 軸とセンターを意識して各パーツを切り抜きバランスとイメージを知る 自らのバランスを理解して自画像を描く				
3	ヘアスタイル	美しい楕円にヘアスタイルのシルエット描く そのヘアバランスにメイクを考える 斜め・横向きのバランスにヘアバランスを描く				
4	スタイル画	8頭身バランスを理解し 時代の流行のスタイル画を描く 頭部と衣装バランス考えスタイル画デザインする				
5	日本の美	絵画による歴史のヘアスタイルと顔の美を知り描く(垂髪・鬢) ブライダル和装文欽高島田のデザイン画を描く				
6	西洋の美	ヘアスタイル・メイク ロココ調ドレスとヘアデザイン(ボリュームと編み込み) ウェディングドレスのデザイン画を描く				
7	自分デザイン	なりたい自分デザイン(ヘア・メイク・8頭身スタイル画)				
8	デザインとは何かを考える	身近なデザイン・アイデアを使ったヘアメイクを考え、感性や創造性を養う 決めたテーマを自由にヘアメイクデザインシートを書く				自分で
9	コレクションヘアメイクⅠ 有名デザイナーら学ぶデザイン	早くきれいにデザインを作る方法 組み立て手順・デザインシートを書きヘアメイクデザインを作るⅠ				
10	コレクションヘアメイクⅡ 有名デザイナーから学ぶデザイン	早くきれいにデザインを作る方法 組み立て手順・デザインシートを書きヘアメイクデザインを作るⅡ				
11	作りこみヘアメイクⅠ メイクブランドから学ぶデザイン	イメージをふくらませ、ヘアメイクデザインを作るⅠ				
12	作りこみヘアメイクⅡ 花・木・陸からデザインをつくる	イメージをふくらませ、ヘアメイクデザインを作るⅡ				
13	作りこみヘアメイクⅢ 空・海・太陽からイメージしデザインをつくる	イメージをふくらませ、ヘアメイクデザインを作るⅢ				
14	期末試験対策 課題シートを作成・完成させる 【自然の危機と美しさ】	課題のデザインシートを完成させ、イメージしたヘアメイクを練習する デザインシート+ヘアメイクデザイン				
15	定期試験	イメージヘアメイクを指定時間内に完成させる +ヘアメイクデザイン デザインシートは仕上げたものを使用する				デザインシート

科目名 (英)	ヘアメイク I heiemake I	年次	1	実務経験	担当	足立祐希
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2		曜日・時間	1組(月3・4限)2組(金3・4限)3組(1・2限)
講師紹介	雑誌、広告媒体の仕事を多くこなす現役ヘアメイクアップアーティストによる現場実践型の授業を行います。					
目的 科目概要	ヘアセットを行うにあたり、必要不可欠となる基本技術のスキルを身につけベーシックなヘアスタイルを学ぶ					
到達目標	ヘアの基本技術を習得し、ベーシックスタイルが作れるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品					
教科書	なし		事前事後 学習と その内容	授業時は必ずメモをとり、必ず復習をすること。		
教材	ヘア道具一式					
特記事項	授業時はエプロンを着用のこと					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	ホットカーラー	基本となるアップ巻き、ダウン巻きを学ぶ
2	ストレートアイロン	ストレートアイロンのプロセスを覚える
3	コテ巻き	内巻き、外巻き、ミックス巻きを覚える
4	ピンニング	基本の5点どめのプロセス、強度のある仕上がりを目指す
5	ピンニング、逆毛	ピンニングの復習、逆毛の立て方の基礎、役割を覚える
6	かぶせアップ	かぶせアップの基本構成を覚え美しく仕上げる
7	定期試験かぶせアップ25分	定期試験練習後、定期試験
8	編み込み	裏編み、表編み、カチューシャの編み方を覚える
9	編み込みアップ	編み込みのアップスタイルを作る
10	ツイスト-half、ツイスト	ツイスト練習を行い、halfスタイルが作れるようになる
11	ルーズアップ	ルーズのアップを作れるようになる
12	あみおろし	編みおろしスタイルのプロセスを覚える
13	ゴム一束、ポニーアレンジ	基本のゴム結びを覚えて、ポニーテールのアレンジを覚える。
14	カールアップ	カールアップの基本構成を覚え美しく仕上げる
15	定期試験カールアップ30分	定期試験練習後、定期試験

科目名 (英)	ヘアスタイリングⅡ Hair Styling Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	小野寺舞
		授業形態	演習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4		曜日・時間	飽海(木1・2限)2組(水1・2限)3組(水3・4限)
講師紹介	ヘアメイクアーティストとして様々な現場を経験し、現在は事務所の代表を務めながら現役としても自身の技術を雑誌で紹介する等、活動しております。スタイルを作る方法は様々なので、皆さんそれぞれに合った学び方で技術を習得出来るようお伝えします。					
目的 科目概要	ヘアアレンジする為の様々なヘアスタイルの種類を学び、応用のヘア技術を習得する。スタイルの幅を広げデザイン力を身に付ける。					
到達目標	実用性～ファッション性の高いヘアスタイルを学び自分自身及びお客様までのトータルバランスをイメージ出来るようになる。ヘアアレンジの技術力、表現力を身に付ける。ファッション性の高いヘアスタイルを作る事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	プリント	事前事後 学習と その内容	実習後、次の授業までに復習し、より確実に身に付ける事が望ましい。			
教材	ヘア道具一式					
特記事項	実技がメインとなる授業の為、遅刻欠席は出来るだけせず、毎授業において手順等の内容は必ずメモを取り復習すること。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	ダウンスタイル～アップスタイル①	基礎技術演習を行い、ヘアテクニックの基礎を再確認してスタイルを仕上げる(3パターン)
2	ホットカーラーアップスタイル	ホットカーラーを使いスタイルを仕上げる 仕上がりの違いを理解する
3	ダウンスタイル～アップスタイル②	技術の応用を使い、バランスを考えてスタイルを仕上げる(3パターン)
4	雑誌別ヘアアレンジ	雑誌の系統、特徴を理解し、それに合わせたスタイルを仕上げる
5	作り方を考える	グループワークで行い、イラストのスタイルから作り方を考え、同様に仕上げる
6	相モデル実習①	一人3スタイルを提案してスタイルを完成させる
7	中間テスト	テーマに合わせて応用技術を使いスタイルを作成する
8	年代風別ヘアアレンジ	年代別の流行を理解し、スタイルを仕上げる
9	ファッションヘア	テーマに合わせて自由なヘアスタイルを作成する
10	相モデル実習②	お互いの要望に合わせたスタイルを仕上げる
11	表面をデザインする①	デザイン性の高いスタイルを学んでスタイルを作成する イラスト含む
12	表面をデザインする②	デザイン性の高いスタイルを学んでスタイルを作成する イラスト含む
13	クリエイティブヘア①	アートなスタイルを学び作成する イラスト含む
14	クリエイティブヘア②	アートなスタイルを学び作成する イラスト含む
15	期末テスト	今まで学んだ事を活かして各自テーマをつけて自由にヘアスタイルを作成する

科目名 (英)	グローバルサービス Global Services	年次	1	実務経験	担当	ノヴァ
		授業形態	講義			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	開講区分	後期	
		単位	2		曜日・時間	1組(火3限)2組(火2限)・3組(火1限)
講師紹介	語学教育の経験があり、様々な学校の学生様から企業様まで幅広い世代に語学を教えております。生徒の皆さんが語学や文化に興味を持ってくれるような授業を展開していきます。					
目的 科目概要	英語: 海外モデルとのコミュニケーションをとる事ができ、メイクスキルに必要な英語での表現を習得する 韓国語: 言語を通して異文化理解に努め、韓国語で挨拶や身の回りの言葉を話せるようになる					
到達目標	言語を通して異文化について興味関心を持ち、今後のキャリアへとつなげる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	English for Beauticians	事前事後 学習と その内容	自宅で予習・復習を行うこと。			
教材						
特記事項	教科書、ノート、筆記用具を持参し、配布されたプリントはファイルに取っておくこと。先生が板書した内容を丁寧にノートに取ること。積極的に授業に参加してください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	Unit 1 挨拶/自己紹介	自己紹介・仕事を紹介する表現を学ぶ 自己紹介が出来るようになる 自身の仕事について紹介出来るようになる
2	Unit 2 電話対応	電話予約の表現を学ぶ 電話で予約を承ることが出来るようになる
3	Unit 3 飛び込み客	飛び込み客への対応の表現を学ぶ 飛び込み客の対応が出来るようになる
4	Unit 4 お客様への質問	丁寧な質問の仕方を学ぶ お客様に失礼のない質問が出来るようになる
5	Unit 5 道案内	道案内の表現を学ぶ サロンまでの道案内が出来るようになる
6	Unit 6 会計	会計の表現を学ぶ 会計をすることが出来るようになる
7	中間試験	中間試験
8	【韓国語】 ハングルを理解しよう	ハングルを使って自分の名前を書けるようになる 身の回りのハングルを読めるようになる
9	【韓国語】 挨拶/自己紹介	自己紹介・仕事を紹介する表現を学ぶ 自己紹介が出来るようになる 自身の仕事について紹介出来るようになる
10	【韓国語】 日常会話で使えるフレーズ	普段使える簡単なフレーズを学ぶ 簡単な意思疎通をとれるようになる
11	【韓国語】 流行しているヘアメイク	韓国コスメや流行のヘアメイクについて学ぶ
12	【韓国語】 コミュニケーションをとろう	学んだフレーズを使ってコミュニケーションを取る 韓国人のお客様と簡単な会話ができる
13	Unit 8 施術中	会話を続ける方法を学ぶ お客様と雑談出来るようになる
14	復習	定期テストに向けて復習を行う
15	定期試験	定期試験

科目名 (英)	ファッションコーディネート Fashion	年次	1	実務経験	担当	坂田依智子
		授業形態	演習			
学科・コース	ヘアメイク科	時間数	30	有	開講区分	後期※前半集中
		単位	2		曜日・時間	1組(3・4限)2組(1・2限)3組(1・2限)
講師紹介	ウェディングスタイリストとして15年間、ドレスショップや式場、ホテルの現場で婚礼衣装業務、また責任者として部下の育成にも携わってきました。その現場での経験を伝えながら、知識やスキルの指導を行います。					
目的 科目概要	目的:ヘアメイクアーティストとして必要なファッションからヘアメイクまでトータルコーディネートの重要性を学ぶ。 概要:フォーマルウエアの基礎知識、新郎新婦の洋装の着付けのスキルを学ぶ。					
到達目標	ウェディングファッションの基礎知識を習得し、新郎新婦の洋装の着付けからヘアメイクまでトータルコーディネートができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	JWSA①WEDDING FASHION JWSA指定スキルチェックノートブック			事前事後 学習と その内容	毎回の授業内容の復習をし、よく理解した上で実技の演習を受けてください。	
教材	衣裳、小物類 等					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	ウェディングファッション・フォーマルウエアの知識	結婚に関する儀式、衣服の概念を理解し、ウェディングファッション・フォーマルウエアの格式、装いの知識を学ぶ。
2	新婦の洋装の知識、ドレスの着付け	ドレスの歴史、ドレスの種類・ディテール・サイズを学ぶ。 ドレスのフィッティングテクニックを理解し、実践する。
3	新郎の洋装の知識、メンズフォーマルの着付け	メンズフォーマルの種類・ディテール・サイズを学ぶ。 メンズフォーマルのフィッティングテクニックを理解し、実践する。
4	新婦の洋装のトータルコーディネート提案	新婦の洋装の小物類の知識を習得し、新婦の洋装のトータルコーディネートを考える。
5	新婦の洋装のトータルコーディネート実践	第4回で考えたテーマで、新婦の洋装のトータルコーディネートを実践する。
6	定期試験対策、ドレスの着付け	試験に向けて、総復習。 技試験で使用するドレスを決め、相モデルでドレスのフィッティング練習。
7	定期試験	実技試験:ドレスのフィッティング 筆記試験:知識問題
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		